第二百七十二號

NAMBEI SHIMPO

8 de FEVEREIRO de 1940

週刊南米

NOTICIAS DA GUERRA EUROPÉA E SINO-JAPONESA

サンパウロ市ピレーズ
モッタ八三八番地
發行所 南米新報社
購讀料 一年 二〇〇
廣告料 一段 七〇〇

本紙の特色
ニュースの週間綜合編輯

英獨戰のお株奪る
蘇聯の弱肉强食
反蘇意識に拍車を加へる

◇

ポーランドの次の運命を背負はされたフインランドへ蘇聯の空陸海三體からの攻撃に一たまりもなく首都ヘルシンキを放棄して遷都降伏か亡國かの岐路に立つて、全世界の同情を一身に浴びてゐる、然しこの同情なるものがまことに頼りにならないセンチメンタル的なもので、フインランドの楯となつて赤軍を壓へやうと云ふ國は一つもない、唯フインランドヒイキの米國が、蘇聯に對し外交的威嚇を放つてゐるのが關の山で、荒鷲に摑まれた小雀と云ふのが、現在のフインランドである、赤い鷲は果してフインランドを餌食とするか傷つけておつばなすか、何れにしても再び健全なフインランドには戻れないのである。

◇

そも〳〵蘇聯今回の對フインランド攻勢は、蘇聯が獨逸と提携、ヨーロッパ制覇の波に乘つて、先にバルチック三小國エストニア、ラトヴイア、リトニアを支配下におくことに成功した勢ひを驅り、バルチック制覇完成への仕上にフインランドへ觸手を延ばし、蘇聯多年の宿望を果さんと去る十月上旬フインランドに呼びかけたもの、これがモスコー會談となつたのだが、蘇聯の要求はフインランドの獨立を脆胎に陷いれるものであるとフインランドが强硬に突張り遂に會談は決裂、しからばと蘇聯が實力に訴へたのである。

◇

モロトフ蘇聯外相の聲明によれば、その要求なるものは

一、相互援助條約の締結

二、フインランド灣に位する島嶼若干の讓渡

三、レーニングランド北方の蘇フ國境を二三十粁北方に移す事

四、フインランド灣西南の領土割讓、海軍軍事基地の建設

五、右代償にソ聯領カレリア地方一部讓渡

の五項目となつてゐる、フインランドはソ聯海軍力强化を認めて要求の一部を承認したが、第一項の要求に對しては獨立を危くするものとして敢然拒絶、事態を戰爭にまで移してしまつた

◇

一方フインランドとしては、ソ聯を相手に頑張つた理由は、たとへ英米民主々義國からの直接援助はなくともスウエーデン、ノールエー、デンマークの北歐諸國が、フインランドと共同戰線に起つものと見てゐた、既にフインランドを加へた北歐四ケ國元首會議においても中立維持の共同コムミニケまで發し、英佛へも、獨ソへも富らす障らずの外交方策をもつて臨んで來たのであるが、今日に至つてはかゝる共同コムミニケも諸國はフインランドの次に各々の國家にソ聯の鏑手が延びる事を知りながらも對ソ第一線たるフインランドに何らの援助も爲し得ず、戰々競々ソ聯の行動を見守つて嚮ては來たらんソ聯の壓力への對應策に没々としてゐるのである。

◇

茲に注目すべきはソ聯がバルカンを狙ひ、極東を窺ひ、北歐を掠めるの侵略行爲を公然と開始したるに對する世界の輿論である、數ケ月前まで民主々義國と友好關係を持して平和の假面を冠つてゐた時とはまるで違つて、獨逸を除いた世界各國の反感は忽ち昂められ米國の如きは遠吠え乍らも强硬に反ソ熱を擧げ、伊太利は、反ソ意識へ更に拍車を加へるなど、ソ聯への憎悪は急速度に昂つてゐる、しかもこの間、英獨の戰爭はソ聯のフインランド侵略にお株を奪はれた體で怪訝な面持ちで成行を眺めてゐると云ふ、ヨーロッパは手のつけられない怪奇な姿を晒してゐるのである。

右の報傳へらる、やロンドン、パリー、ベルリンにてはバルカン平和のため何れも祝福の意を表してゐる而して其の觀る所によれば若し赤露がフインランド侵略の野望を達したあかつき彼は恐らくバルチック海沿岸地方をそゝ傘下に收めて北歐諸國に對する安全性と防備感とを滿足するであろう、斯くて赤露今後の侵略的進路は必ずバルカンでなければなるまい。

尤も單にバルカン方面と云つても特殊な地域即ちベツサラビア及びトランスコーカサスの露土國境に近いカルス地方であらうと觀られてゐる。何故ならば此等の二地方は今次歐洲戰の勃發と共に、ソ國が次々と工作し或は奪ひ或は形式上は相互條約締結ではあるが、事實上は自己の勢力下に收めたポーランドの東半、ラトビヤ、リトヴニア、エストニアそしてフインランドの五國と共に第一次大戰に於ける帝政ロシアの失地に外ならないからである。

赤露の侵略を恐れる
巴爾幹自衛會議
條約を七ケ年延長

赤露のフインランド侵略に脅えるバルカンの協商國會議は本月二、三の兩日に亘りベルグラードに於てルーマニア、トルコ、ギリシヤ、及びユーゴスラビア四ケ國の代表が參加して開催され、各種バルカン共通の利害關係につき愼重に協議された結果、バルカンの平和を維持する爲めには飽くまで共同して干渉乃至侵略の第三國に當ることを主旨とする七ケ條の協定を新たに締結し、從來のバルカン平和協定を本年二月九日より起算して更に向ふ七ケ年間延長有効ならしめる事と爲したが、時局の推移に從ひ來る四月ブカレストに於て第二次會議を招集する筈だと云ふ。

所謂冬季攻勢
完全に潰滅

三日我が大本營陸軍報道部より南寧附近の一大決戰によつて、將介石の謂ゆる冬季攻勢が完全に潰滅した旨發表された。

蘇聯援將一轉機
指す目的を化赤那支の全面的

最近の情報によれば、重慶に於ける國黨及び元老派と共產黨との抗爭は極度に濃化して、殊に行政院の改組問題を繞つて爆發し重慶政府は爲めに著しい動搖を來たしその影響は更に重慶内部のみならず、地方迄波及し重大化されんとしてゐると云ふ即ち問題は今度の行政院改組に際して共產黨側が陳紹萬、周恩來、泰邦憲等の同黨中堅幹部の部長就任を蔣介石に對して要求したが、これに對して國民黨元老派の于右任、戴天仇、祭元培、李石曾等の猛烈な反對に會ひ蔣介石も共產黨の要求のみを容認出來ず、次長に就任せしめる事によつて兩派を慰撫せんとしたが、その結果は寧ろ兩派の抗爭を一段と激化せしめ遂に重慶政府内部の抗爭は敢ぜざるを得ざる事態にまでなつたのであり、從來も常に蘇聯を背景にして橫暴を極めた共產黨の仕打に憤怒を禁じ得なかつた地方將領にその影響するところ大であると云はれる。

◇

重慶政府内部に於ける國民黨對共產黨の摩擦はこれまでにも幾度か表面化し、その度毎に共產黨が何等かの勢力を獲得しつ、結局は妥協成立して今日まで依然その合作が繼續され來つたのである、而してこの行政院改組問題に於いても、共產黨の國民黨に對する攻勢と見られるべく、結局共產黨はこれを機會に從來と同樣何等かの勢力伸長を爲すものと考へられる、この中國共產黨の國民黨への攻勢の背後にあるものは蘇聯の强力な援助であることは勿論であるが、國共合作を破つて重慶政府に於ける共產黨の勢力が擴大確固たらしめる積極的政策の表れと見ることが出來る。

◇

ノモンハン停戰協定成立後に於ける蘇聯の對支政策の如何は我國に於ても二種の見解が爲された、即ち一は蘇聯が停戰後は援蔣政策を中止せぬ迄も漸次緩めるであらうと云ふ觀方と、二はこれと反對に停戰による蘇聯の余力は勢ひ支那にむかひ援蔣政策は却て强化されそであらうと云ふ見方であつた。而して事實は從來の如く單に重慶政府を援助する即ち國共合作援蔣行爲を繼續して日本を疲弊せしめ樣とする政策でなしに、全面的に中國共產黨を援助の御座に親しみ得てゐる、自己の本家郷の法幸に浸つてゐる』と印可證明を與へられた。

△

道元禪師は實にその夜、眞の自己の本家郷に歸られたのである、佛の座にぴたりとお坐りなされたのである。禪師が道場にあつて脚を曲げ手を重ねて坐禪修行なされたその樣式は從前と何ら異る所がないのであるが、本當にその坐禪の妙德をしみ〴〵お味ひなされたは、この夜が初めてであつたのである。『坐禪は習禪に非ず、安樂の法門なり』この樂しさを、どうして味はないのか、この座に早く親しめ、たゞ無條件に親しめ、只管打坐だ、どうもかうもない、ぴつたりと佛座に坐りこめばい、、この妙樂、この大自由を、どうして體認しないのか、と師が大獅子吼されるのもこの夜、自身に深くそれを體認されたからである。

△

坐禪にも多般あつて、その提示さまざまであるが、

求人

日本にて多少教育を受けたる獨身者にて葡語を解し、日本人として事務員として採用し度し、但し市内に確實な希望者は履歷書携帶豫め電話にて時間打合せの上來談ありたし

聖市 南米新報社
電七一一六一四

内部の抗爭は敢ぜざるを得ざる事態にまでなつたのであり、從來も常に蘇聯を背景にして橫暴を極めた共產黨の仕打に憤怒を禁じ得なかつた地方將領にその影響するところ大であると云はれる。

◇

重慶政府内部に於ける國民黨對共產黨の摩擦はこれまでにも幾度か表面化し、その度毎に共產黨が何等かの勢力を獲得しつ、結局は妥協成立して今日まで依然その合作が繼續され來つたのである、而してこの行政院改組問題に於いても、共產黨の國民黨に對する攻勢と見られるべく、結局共產黨はこれを機會に從來と同樣何等かの勢力伸長を爲すものと考へられる、この中國共產黨の國民黨への攻勢の背後にあるものは蘇聯の强力な援助であることは勿論であるが、國共合作を破つて重慶政府に於ける共產黨の勢力が擴大確固たらしめる積極的政策の表れと見ることが出來る。

◇

ノモンハン停戰協定成立後に於ける蘇聯の對支政策の如何は我國に於ても二種の見解が爲された、即ち一は蘇聯が停戰後は援蔣政策を中止せぬ迄も漸次緩めるであらうと云ふ觀方と、二はこれと反對に停戰による蘇聯の余力は勢ひ支那にむかひ援蔣政策は却て强化されそであらうと云ふ見方であつた。而して事實は從來の如く單に重慶政府を援助する即ち國共合作援蔣行爲を繼續して日本を疲弊せしめ樣とする政策でなしに、全面的に中國共產黨を援助の御座に親しみ得てゐる、自己の本家郷の法幸に浸つてゐる』と印可證明を與へられた。

△

道元禪師は實にその夜、眞の自己の本家郷に歸られたのである、佛の座にぴたりとお坐りなされたのである。禪師が道場にあつて脚を曲げ手を重ねて坐禪修行なされたその樣式は從前と何ら異る所がないのであるが、本當にその坐禪の妙德をしみ〴〵お味ひなされたは、この夜が初めてであつたのである。『坐禪は習禪に非ず、安樂の法門なり』この樂しさを、どうして味はないのか、この座に早く親しめ、たゞ無條件に親しめ、只管打坐だ、どうもかうもない、ぴつたりと佛座に坐りこめばい、、この妙樂、この大自由を、どうして體認しないのか、と師が大獅子吼されるのもこの夜、自身に深くそれを體認されたからである。

△

坐禪にも多般あつて、その提示さまざまであるが、

肚の修養禪の話

山田靈林稿
無文漢敷衍

（六）

しかるところ皇紀一八八五年（嘉祿元年）道元禪師廿六歲、夜道場に於て隣に座してゐる僧が居眠りして師から叱りつけられた、その言葉が恰もよし、今まさに親しく體認してゐる所を、有りのまゝに道破して餘蘊なきものであつた道元の禪機法悅は如何なる言句を以つてするも、到底名狀することが出來ぬ。

△

如淨老師がその居室にお歸りになるを待ちかね行き香をたいて禮拜をされた、『燒香の事そもさん』即ち香をたいて禮拜するのはどういふわけか？ とお問ひになる。

その所作といひ、言句といひ中分がない、老師は深くうなづいて『身心脫落』と思はず讃歎された。

しかし道元は、その讃辭を過分であると辭退いたされた、老師は更に語を新にして『登公は、いい境地に到達した、登公の身心は既に一切の葛藤を離れ、雜染を脫して、淸淨妙樂、眞の大自由を獲得してゐる、佛の御座に親しみ得てゐる、自己の本家郷の法幸に浸つてゐる』と印可證明を與へられた。

△

道元禪師は實にその夜、眞の自己の本家郷に歸られたのである、佛の座にぴたりとお坐りなされたのである。禪師が道場にあつて脚を曲げ手を重ねて坐禪修行なされたその樣式は從前と何ら異る所がないのであるが、本當にその坐禪の妙德をしみ〴〵お味ひなされたは、この夜が初めてであつたのである。『坐禪は習禪に非ず、安樂の法門なり』この樂しさを、どうして味はないのか、この座に早く親しめ、たゞ無條件に親しめ、只管打坐だ、どうもかうもない、ぴつたりと佛座に坐りこめばい、、この妙樂、この大自由を、どうして體認しないのか、と師が大獅子吼されるのもこの夜、自身に深くそれを體認されたからである。

△

坐禪にも多般あつて、その提示さまざまであるが、

日本にて多少教育を受けたる獨身者にて葡語を解し、日本人として事務員として採用し度し、但し市内に確實な希望者は履歷書携帶豫め電話にて時間打合せの上來談ありたし

聖市 南米新報社
電七一一六一四

求人

日本にて多少教育を受けたる獨身者にて葡語を解し、日本人として事務員として採用し度し、但し市内に確實な希望者は履歷書携帶豫め電話にて時間打合せの上來談ありたし

聖市 南米新報社
電七一一六一四

今週話題

よもやま

汪氏に大旗を贈る

【東京通信】支那中央政權の誕生に奮鬪して居る汪兆銘に日本の熱意を送らうと企劃院食堂の從業員一同が街頭で蒐集した男十万人の署名と、女十万人の祈願針で作つた五旗協和の大旗が目出度く出來上つたので總桐の箱に納めて去月二十八日午後從業員代表が陸軍省を訪れ汪氏に東京市民の熱意を傳達して下さいと届けて來たので陸軍省では近く汪氏の許に送附する筈である。

○——○

貿易斡旋所を增設

【東京發】商工省では我が國貿易を一段と伸張せしむべく海外に於ける二十五ケ所の貿易斡旋所の外に、さらに新らたなる十一ケ所の貿易斡旋所を本年三月までに設立することになつた、新設の斡旋所は歐洲大戰勃發後我が國輸出販路が極めて有望となつた南米諸國、南洋、アフリカ等に設置されるはずである。

○——○

統後献金五千萬圓

學戰第三年の昭和十四年中に於ける陸軍への國防獻金は昭和十三年度に比し約三百七十萬圓を增加し事變發生以來の累計は約五千萬圓に達したのである。

○——○

舘山市長に近藤中將

【東京特信】去年十一月三日明治節の佳節に市制を施行した千葉縣舘山市では豫て市長を詮衡中のところ、初代の市長として十二月二十五日開會の初市會に於いて今事變に赫々たる武勳をたて、此程歸還した近藤英二郎海軍中將と決した、同中將は舘山海軍航空隊二代目の司令官として市民に馴染深く、舘山市民が將來海軍都市としての發展を期し、武人市長を戴くべく同中將に就任方を交渉、中將も市會の意を容れていよ〳〵第二の故郷舘山市のために一肌脫ぐことになつたものである。

○——○

蘇國に於る新搾取法

スターリンは『凡てを解決するものは人間である』と言つたが、ソ國の戰鬪的共產主義の强化は、獨り莫大な資金を要するのみならず、多數の人力に俟たなければならない。其處で、ボリシエヴイキは最近の大動員による勞働力の不足を補充するため廣く婦人を生產場に於て展開されつゝある大衆的職業新合同運動は大なる意義をもつことになる、勞働者は同時に各種多樣の職能を行ふべきである。

△

此の制度は凡ての企業に適用さるべきもので、數名の勞働者を交替せしめる此の制度は第一資金の大經濟である。何故かといふと、勞働者は補助勞働の爲に本給に對し、僅かの追加プレミアムを貰ひ、自分の交替する勞働者の本給を貰は

Pag. de literatura　學藝欄

純粹日本文學の精神

最高峰に立つ上代の人々

（廿四）

本居宣長

寛政二年十一月、還暦の齢に達した本居宣長は、滅多に旅行に出た事のない人であつたが、新造の内裡に光格天皇の遷幸あそばされるのを拜する爲め、伊勢の松坂から都に旅立つた、出立の日には、一日中空が雲つて晴れなかつたので、人々がその事をかこつのを聞いて、宣長は

曇るとてかこつもあやなふりはへて行幸見に行く冬の旅路を

とさとし、勇んで上京の旅路についた、遷幸の儀は十一月二十二日に行はれた、これを拜觀した宣長の感激がいかに大きかつたかは一篇長大の長歌を賦して、壯嚴華麗の行幸の御有樣を描き、反歌において

いや高にみつの新宮しきそめて御代は榮えむ萬代までに

と壽ぐと共に翌二十三日、洛東雙林寺で歌會が催された時、寄日祝の題によつて

とことはに世を天てらす日の本の國の榮えぞ限り知られぬ

と雄大な調をなしたのは、前日の感激の情が宣長を驅つて、日本の永遠の相に深く思ひを至らしめたからである、新宮造營、天皇行幸の現實と、國家無窮の信念とは密接なつながりを持つて宣長の心を動かしたのである、此の現象は偉大なる先覺宣長翁と、もに、現在のわれ〳〵國民にも亦、同一の體驗いもとにあるものでなければならない。

あたかも、同じ寛政二年の八月に、かの有名な

しきしまの大和心を人問はば朝日に匂ふ山櫻花

を詠じて、宣長は自畫像の上に自讃してゐるのである

◇

賀茂眞淵が、あれほど思ひを上代に馳せ、心を國家の事にひそませたにかゝはらず、その家集を檢する時その中には、眞淵の理想を直接に打ち出したものを、殆ど見出す事が出來ないのに、一種の矛盾を感じるのである、併し、これもよく考へて見ると、契沖によつて、國學の理論的基礎が置かれ春滿、眞淵によつて、それが生活の方に近づけられたけれども、未だ、國學の精神が、內面外面のすべての生活に融合し、徹底した現實生活の行動化となる所までには行かなかつたのである。

◇

從つて眞淵による國學の生活化といふ事は、未だ精神的な部面にとゞまつてゐた、田安宗武に仕へてゐた眞淵は、國學を行動化する事とは未だ緣の遠い所にあつた、宣長に至つて、それは徐々に現實生活において行爲的に具体化される方向へと進んで行つたのである

かくて、新宮遷幸の行幸を拜觀する爲めにわざ〳〵上京して、國家の永遠を讃美する情を直接聲の中に表出する樣にもなる、上代的な和歌の理念は、これをしきりに說いた眞淵によるよりも、むしろ歌學上の意見では眞淵と反對の立場にあつた宣長によつて實現されたかの感がある、國學を契機とする民族の傳統感情はかくして眞淵より宣長に至り一層高め深められた事がわかる、之は國學の一層の發展を意味するものであつた

◇

寛政二年は、なほ宣長に取つても、わが文化史の上に取つても記念すべき年であつた。それは、宣長が實曆十三年、三十四歲の時、眞淵の門に入つて、師から古事記研究の必要とその成功を勸奬せられ、翌明和元年、三十五歲にしてはじめて古事記の詳しい註釋に志した研究の成果は、その後二十七年にして、漸く此の寛政二年から古事記傳となつて現はれ、その刊行が開始せられて巨大なる姿を社會に示すに至つた故である

◇

しかも古事記傳の全部の原稿が完成したのはその後八年、寛政十年であつて、宣長は時に六十九歲着手以來まさに三十五年を閱してゐた、此の故に、寛政はわが精神文化の歷史上に記憶せらるべき年であり、偉大なる民族文學の更生は、此の所に見事な、且卓越した結實を得た、かくして、民族文學の始原に立ち返つて、新しく出發すべき方向の指針を得る事が出來た、此の精神的支柱に依據して、これが改めて行動に移される時、神道へ、古道へ、皇道へ、親政への理想となつて展開されるのである、同學は宣長によつて、一層行動的方向へ、歩を進めた。

◇

古事記傳は、科學的研究と、宣長の理論の展開とにおいて、最もすぐれた學術的成果を作り出してゐるのであるが、しかもそれは單に書齋的、机上論に終らずして、國家の發展に對する實踐的熱情を十分に含めて行徹底させて、國學精神を鮮明にした名著『直毘靈』を附した、宣長の眞意が明確に把握せられなければならない。

◇

さうして『天津日嗣の高御座は天地のむた、常盤に坐す、此の道の靈く奇く、異國の萬づの道にすぐれて、正しく高き貴き微なりける』と喝破した宣長の精神は『上の事を敎へてゐるのである。

くる見む人疑はじ』といふ、古事記の研究より得た信念によつて發揮せられたものであり、精到なる研究は、遂に此の信念に到達すべき件すべて己が私の心もて云ふにあらず、盡く古典によるる所あることにしあればよ

新中央政權の樹立と其內面に橫はる難關

（上）

【東京特信】汪精衛氏の和平建國運動は表面新中央政權樹立の輝かしき將來を約束しつゝも、內面的には極めて微妙且つ重大な段階を示してゐる。無論東亞混亂の大目的の下に支那民衆を把握すると共に、日支の協力によりアジア新事態の實現を期するものだけに、この運動が一朝一夕に成熟するはずもなく、云はゞ生みの惱みの中にあるのである。抗戰立國の歪められた指導政策に操られてゐる民衆を反省せしめ、日本の强大なる支持の下に永遠の和平を獲得し、新支那を更生せしむることを最終目的とする

の一手段でしかあり得ないのである。この觀点からするならば、汪氏の運動は支那事變の現段階に於て和戰の岐路を決定する重要性を持つてゐるだけに日支兩國民の理解と認識に依つて、更らに大なる努力を必要とされてゐる。

△

尤も汪運動はその理論根據は兎も角として、その實力に於て果して支那民衆を統制し得るものであるか否かはその內面的要素から見て尙ほ疑問であり、斯の如き實體の將來性に不安を抱く向もあるが、冷靜に

ば表裏相異るのである。支那が無限度に獨立自主を强調し、その確保は國際的義絆を脫することのみでなく好意ある指導力をも排擊することであると錯覺し、日本また事變處理に當り、あまり時代主義的な現實政策に捉はれるならば、そこには大きな距りを重ねるのみで汪政權成立の目的を失ふに過ぎないのである。

△

和平建國運動に政權設定を目的とするものではなく和平建國の精神運動として命ぜられ、日本の强大なる支持の下に永遠の和平を獲得し、新支那を更生せしむることを最終目的とする

ものであり、政權設定はその一手段でしかあり得ないのである。この觀点からするならば、汪氏の運動は支那事變の現段階に於て和戰の岐路を決定する重要性を持つてゐるだけに日支兩國民の理解と認識に依つて、更らに大なる努力を必要とされてゐる。

△

尤も汪運動はその理論根據は兎も角として、その實力に於て果して支那民衆を統制し得るものであるか否かはその內面的要素から見て尙ほ疑問であり、斯の如き實體の將來性に不安を抱く向もあるが、冷靜に

判斷して見て和平の途はこれ以外に發見出來ないのである。日本と正面衝突してゐるのが重慶政權であり、支那の實力は大半重慶政權に握られてはゐるが、蔣介石がその政治的性格を改めざる限りこれとの直接交涉は我が近衛聲明を待つまでもなく斷じて不可能である

△

その理由は重慶の政治的性格を見れば直ちに判ることで、重慶の本質が最早共產黨との不可分關係におかれ、抗戰なくして政治的生命が維持されない運命にあつたいつて居ることである。しかこの聖戰が重慶政權を反省せしむる所とならず、遂に全面戰爭に擴大し、今日に至つたものである、この日日本と協力せんとするものである、國民黨の名稱は同樣でも、もはや日本の敵視する國民黨と本質を異にして居るのである。

△

然もこの純正國民黨をもつて國民黨の本陣たらしめるのであるならば、日本も國民黨の名稱に對する嫌惡感を放棄しても差支へないはずである、勿論支那に於ける一黨專制が支那全民衆の總意を無視してゆがめられた國家の形態を組織するに至つたものであるから、國民黨を有力な政黨とはするものゝ、各黨、各派、無黨無派を網羅せる擧國一致全民の意向を統合せんとするところに多大の政治的反省が認められる、その他これと類似の國民黨色に於ても、同樣のことが云ひ得るのである、要は和平か抗戰かの指導心理の問題であつて、決して名稱にのみとらはるべきではないのである。

△

重慶に於ける國民黨の本質は排擊すべきではあるが汪氏の國民黨をも同一視すべきではあるまい、況んや民心なほ動かす全支抗日の怒濤の眞只中に於いて和平を口にして民衆を說き、重慶を覺醒せしめんとする汪氏の決死的な政治運動は、すでに今日まで約一年間にゆまず進められて居るところに氏の熱血あふるゝ愛國の至情を認めなければならないであらう、この氣魄と熱情が今日に於いてかくの如く發展しつゝあることはそれだけでも偉大な新支那の飛躍とも云ふべく、實力足らず、民衆顚ならずとの現實かつ表面的な觀測のみを以つて氏の政治運動を批評することは極めて危險とする所である。

△

その將來性は汪氏をはじめ支那の同憂具眼の士が、さらに危險な進路をたどり努力を傾倒することによつて決定されるが、同時にまた日本のこれに對する認識と支持の如何が左右するものであることは云ふまでもない、民衆を把握することも、重慶を政治的に壓倒することも、かゝつて汪政權の政治的本質の如何によるものである、事變處理の大眼目が和平にあるならばこの政權の成育を全幅的に支持することが我が日本の最大使命たらねばならぬ。

紀元節をトし皇國日本黨

革新勢力と結集す

【東京特報】皇國內外の情勢多事多端の折柄之れが打開は戰時國內の强化と革新勢力の結集にまつべしとの建前より衆議院議員小田榮陸軍少將石井虎雄氏等は今月の紀元節をトして皇國日本黨の結成を爲すこと、なり左の綱領草案を發表した

一、一君萬民君民一如の皇國體の本義に基き皇國日本の飛躍發展を期す

二、自由主義、民主々義、共產主義等の亡國思想を壞滅し皇道政治の確立を期す

三、營利第一主義的統制經濟を改廢して國民の總犧牲による戰勝經濟を確立し以て國民生活の安定を期す

四、日本民族並に亞細亞民族の生存權確保の爲積極外交を期す

五、皇國日本を盟主とする全亞細亞一體の國防國家の完成を期す

六、世界舊秩序を打破し道義的新世界體制の確立を期す

△

複雜極まる歐洲動亂

伊太利の反蘇工作

▽——△

歐洲の戰局は西部戰線かゝる北歐蘇フ國境に移動して世界の視聽は强國ソ聯の進擊に、敢然防戰してゐるフインランドに翕然と同情が寄せられてゐる。しかも奇怪なのはソ聯の提携國たるドイツすらフインランドに武器を供給したと報じてゐる事である。

この興味あるニュースに

ドイツ自體はあり得べからざる事であると眞向から否定した。それが果して眞實か否かは他日に讓るとしても、今回の國際戰に華々しい役目を演じてゐる電波の戰ひは斷然英佛に有利である事は爭へない事實であらう。中立國たるアメリカすらフインランドに對する援助は英佛陣營のものであるからドイツの對フインランド武器供給に關する

ロンドン電報やニューヨーク電報は相當割引して判斷すべきである。

▽——△

それに就いても吾人が想起するのは日支事變初期に於ける電波戰である。英、米、ソの援蔣國は完全に戰果の事實を頼かむりして將政權側に有利なニュースを全世界に放送してゐた。上海が陷ちても、南京が陷ちても尙かつ支那側が有利の如く宣傳されてゐたのには故國を離れた我々在外日本人を一方ならずやきもきさせたものだ。今日の歐洲戰亂に際しても、こうした電波戰が繰返され、更に以上激烈を極めてゐる事を認識すべきである。

▽——△

しからば伊太利のフインランド援助行爲も同樣電波戰の產物かと云ふと、これは否と答へるべきである。伊太利政府は蘇フ紛爭に際し、反共政策の最確認を聲明してゐる。またソ聯のバルカン進出阻止のため大手を擴げてソ聯の前に立はだかつてゐるのである。これらことゝ〳〵に反ソ的である伊太利の行動は、今日の對フインランド援助を雄辯に物語つてゐると云へる。

かつてスペインの內亂に際しソ聯が北海を通つて遙々赤色政權を援助したのに今回は伊太利がその逆コースでフインランド援助に乘り出したからとて何ら不思議はないのである。赤色勢力の南下を阻止する使命を帶びた伊太利の現在とり得べき方策はフインランド援助によつてソ聯の力を北方に消耗せしめる事にある。

依つて、ドイツの對フインランド政策の如何に拘らず、伊太利のフインランド援助は積極的であらねばならない。若しこの點、英米と共通であつても、伊太利の場合は飽まで伊太利國自體の立場、即ちソ聯のバルカン攻略に基くものであるが故に、伊太利の動向がソ聯から更に英米と共通なるが故に、伊太利の動向がソ聯から更にドイツへ及ぶものと斷ずる事は誤つており、伊太利のドイツに對する動向は、ソ聯のそれとはどこまでも別箇のものであらう。

支那事變は斷じて侵略に非らず

大眼目は日支共存

支那事變は斷じて支那侵國を憂ひ、和平建國の熱血に燃へて汪氏の運動が擡頭したのである、從つて汪氏の運動は、その政治的地位上日本が敵とした國民黨の背景をもつて生れ出たものであつても、汪氏の國民黨はすでに明らかにされた如く容共抗日のゆがめられた政治的指標をもつものでなく、孫文の大アジア主義に歸つて三民主義を修正し、更生せる國民黨を以つて、日本と協力せんとするもの

第三國の干涉を誘引せんとするに外ならず、如何なるコースも東亞新事態の我が事變精神と完全に背馳するのである、從つて我が事變處理の最大眼目は、汪運動の育成に注がねばならぬのである、汪運動が日支の諒解の下に圓滿に成長することは、即ち支那民衆を把握することはそれだけ重慶政權の勢力を低下せしめ、今日なほ兩立せざる和平と停戰との距離を近からしめるゆえんである、かくの如く今や汪氏の運動は和平への唯一の進路であるならば、日支兩國民は、これを推進するために次の如き事變觀の下に諒解点を合致せしめねばならぬ。

△

重慶に於ける國民黨の本質は排擊すべきではあるが汪氏の國民黨をも同一視すべきではあるまい、況んや民心なほ動かす全支抗日の怒濤の眞只中に於いて和平を口にして民衆を說き、重慶を覺醒せしめんとする汪氏の決死的な政治運動は、すでに今日まで約一年間にゆまず進められて居るところに氏の熱血あふるゝ愛國の至情を認めなければならないであらう、この氣魄と熱情が今日に於いてかくの如く發展しつゝあることはそれだけでも偉大な新支那の飛躍とも云ふべく、實力足らず、民衆顚ならずとの現實かつ表面的な觀測のみを以つて氏の政治運動を批評することは極めて危險とする所である。

△

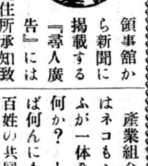
その將來性は汪氏をはじめ支那の同憂具眼の士が、さらに危險な進路をたどり努力を傾倒することによつて決定されるが、同時にまた日本のこれに對する認識と支持の如何が左右するものであることは云ふまでもない、民衆を把握することも、重慶を政治的に壓倒することも、かゝつて汪政權の政治的本質の如何によるものである、事變處理の大眼目が和平にあるならばこの政權の成育を全幅的に支持することが我が日本の最大使命たらねばならぬ。

一波萬波

【法廷へ五十回】

【紐育發】ケート・ラッセルと云ふ六十五歲になるボロを着たお婆さんが前週市の警察判事オリヴワーの前に立つたが此婦人は手九百十一年以來今度で五十回法廷へ曳き出されたと云ふ雜物で、過去二十八年間に四十四人の判事の手に掛つたが其內十七人はあの世の人となつて仕舞つたさうだ。法廷でオリヴワ判事が『ケートお前よくまだ生きて居たね』と訊ねたら、ケート婆さんは濟ました顏をして『ヘイ、時々甘い酒を頂戴いたしますので、お蔭で長生きが出來ます』と答へたが浮浪罪で六十日入獄の宣告を受けた。ケート婆さんは其夜前ジェローム街百六十七丁目のサブ停車場のベンチで轉つて寢て居た所を刑事に發見されたのだと云ふ。

△



領事館から新聞に掲載する『尋人廣告』には唯だ左記の者現住所承知致し度に付本人又は御存知の向は當館迄至急御一報相煩ひ度とあるだけだが、大体オカミの御布令を以つて尋ねられる者は所謂『おたづね者』だ、と云ふ考へ方を抱くのは我々日本人の通有心理狀態であゝ。だからその尋ねられる用向きの如何に拘らず、そういふ廣告を出された者は余り心持ちの好いものではない。之れは出す方では氣のつかない点であらうが、出された方の身になつても少しは考へて貰ひたい。

此頃も私の名前が尋人廣告にあつたから俺は何もオタヅネ者扱ひされるやうな覺えはないが……と恐る〳〵伺つたところ故鄕から手紙が來て居るから受取れとの事、たゞそれだけだつたので、やれ〳〵と安心したわけだが、どうでせうか？領事館さんに御相談願つて『母國よりの便り』とか『何々の件につき照會』とか云ふ風に簡單でいゝから用向きだけ一寸書き添へて戴けないものでせうか、貴社から御相談下さいませんか？

アラサツーバ　K生

▽——△

貴紙前號の投書欄に聖市郊外在住の方に向上會とやらが日本精神講習會をやつたのを、コチヤの產組員から產組精神に反する運動に參加するとは不届きだと云ふ理由で、マジメな敎師を追ひ出したと云ふ事件が載つてゐたが、若しそんな事が眞なりとせば實に怪しからぬ問題だと思ふ。

【ベルリン發】ソ聯とフインランドとの紛爭開始以來ドイツを通じての各國の對フキンランド武器輸送說、並びに最近はドイツのフキンランド軍事援助說まで傳へられてゐるが、ドイツ政府は斯かる報道は全く無根であると正式に否定左の如く發表した

『外國新聞に依り流布されてゐるドイツ對フキンランド軍事援助は何等根據なきものである。ソ聯フインランド開戰以來、軍需品材がドイツから、又はドイツを經由してフキンランドに送られた事實はない、又イタリー機がドイツの上空經由でフインランドに空輸されるのを許可した事もない』

產業組合精神々々と此頃はネコもシヤクシも口に言ふが一体全体產組精神とは何か？と突き込んで見れば何んにも有りやしない、百姓の共同利益を擁護すると云ふことが、日本精神に反するとはフザケタ話だ。日本人の作つた產組なら日本人の精神でやつてゆく所に深甚の意義を見出すのだ日本精神運動が產業組合運動と云ふ形而下の單なる經營運動の下位に立つてたまつたものではない。況んや畏くも貴重なる國

聖市　大野彥一

一億大和民族待望の
二千六百年は遂に來れり!!

本社が曩に發表せる皇紀二千六百年記念事業中の第一事業は江湖の絕大なる支持により今や全く調査の完了を見、近々配本の運びと相成り之偏に同胞各位の御理解ある御盡力の賜ものと深く感謝致居候
茲に又渾身の力を發揮して第二事業の家族名入り『在ブラジル日本人々名錄』の調査を開始すること、相成候
本事業遂行のために第一事業同樣に御後援被下度切に御願ひ申上候

第二事業
皇紀二千六百年記念出版
家族名入
在ブラジル日本人人名錄

上、下二冊各冊七、八百頁・發行部數二万五千冊
吾が大和民族の伯國に移植されてより既に卅有余星霜、此間幾多受難の經路を辿り遂に先輩苦心の實は結ばれて搖ぎなき地盤を固め枝葉は繁りて廿万四方に伸び榮えつゝあること眞に慶賀に堪えません
この秋に當り歷史的祝典を迎え發展途上にある在伯同胞社會の縮圖ともいふ可き各家族の人名と活働能力を詳かに調査し以て數字に現はれたる大陸の發展狀態を瞭かにし更に母國に紹介することは總ゆる方面の參考資料となり且永久に遺る紀念品として意義あるものと信じ茲に前代未聞の家族名入『人名錄』の編纂に着手せる次第であります
本『人名錄』は大祝典迄に完成の目的にて取り急ぎ居りますれば何卒調査上の御便宜御取計ひ被下度御願ひ申上ます

發行所　日伯情報社
聖市コンセレーロ・フルタード二二五
カイシヤ・ポスタール二三番又は一六一番
電話　二・六四八六　二・〇三一三　二・八九〇六　三・四九六二　三・四五三八

CASA HAMAOKA
Rua Carlos Garcia, 103 S. Paulo
肥料・農業藥品・種子物の注文は弊店へ
◉配合肥料
アルゴドン用バタ、用蔬菜用
トマテ用其の他
◉害虫驅除劑
ヴエルデパリス、アルセニア
トデシユンボ　硫酸銅
◉農業用諸機械
◉各種種子物
聖市　メルカド裏川向
カロス　ガルシア街一〇三
郵函　九九三
濱岡商店

海興銀行
CASA BANCARIA IMIGRATORIA LTD.
S. PAULO — REGISTRO
PEDRO DE TOLEDO

糸の運命

同じ國境戰に父を捧げて 勇士の遺兒二人が 机を並べて亡父を語る

——(PAGINA DE NOTICIAS DIVERSAS)——

【東京特信】突然に鳴り響いた滿蒙國境の停戰ラッパ、國境の人柱となつた幾多勇士の遺族達にとつては、一入の感慨深きものがあらうが、わけても同じ國境戰に父を捧げた事によつて結ばれた仲良し同級生——世田ケ谷區東玉川調布高等女一年ロ組に机を並べて居る故東八百藏大佐の次女直子さん(一三)と故山縣武光大佐長女京子さん(一四)の可憐な胸に去來する思ひは?九月十六日午後世田ケ谷區若林の山縣さんの家で、二人はむつまじく勉強して居たが、停戰協定の報に顔を見合せ『まア、もつと外蒙兵を懲らしてからにすればよかつたのに』まだ父の戰死の知らせを受けて日のあさい京子さんが沸き起る敵愾心を口に出せば、つい此頃迄で現地近くに居た直子さんは、『でも澤山の人が、まだ國境で苦勞をしていらつしやるんだから、早く皆んな歸れるといゝのだわネ』と、優しい同情の一言——默した二人の手はテーブルの上のお人形を無心にならべたり、崩したりして居る思ひを遠く父大佐とともに苦勞を重ねた勇士達ちの上に馳せて居るのだらう、直子さんは母親せいさんと共に今春渡滿、彼の地の高女に通學して居たが、去る七月父大佐の遺骨と共に歸去すると直ぐ山縣大佐きみ夫人の世話で調布高女に入校したのである、以來二人は姉妹の如く仲良く毎朝かならず澁谷驛で待ち合せて登校して居るうち、八月二十九日京子さんの父樣も、直子さんのお父樣の後を追ふて國境の華と散つたのであつた。

陸軍省が卒先 米無し日 うどんとパン

【東京特信】米不足の聲をけとばして野良にあがつた軍國一如の大歡聲——さきに歸農部隊に親ごころの動員令を下した陸軍省では、本省自ら節米運動に協力毎週一回『米のない日』を制定して節米實踐に突擊の號令をかけた、この米のない日の初日が去年十一月十五日の水曜日、まづ本省が卒先して省員千五百人の胃袋をみたして居た省内食堂は米一粒の影もなく、パンとうどんの代用食、大臣から給仕、交換嬢にいたるまでこの日ばかりは國策の舌鼓をうちながら『興亞の味覺』に戰線をしのびつゝ、一石二鳥の實をあげやうと云ふのである。

參謀本部、陸軍測量部外か關係各部課千五百人の省員が、一日にこなすお米は三石あまり約八俵、毎週水曜日を『米なし日』として、月に約三十二俵、俵數こそ少いが國をあげての節米運動に及ぼす影響は少くない。

この本省の號令に呼應して前線も銃後も一團となつて進む節米への突擊は、やがて各師團へも及ぼすものと見られ、本省が見せたこの範は注目されるが、川原高級副官は

現在の我が國で足りないと云ふ米は實需のたつた三パーセントだけだ、月に一日米を食はずに居ると、この問題はあつさりと片づく、十日に一食減らしても同じことだ、それでまず陸軍省が卒先して、一週間に一度『米の

つて一石二鳥の對案を練つて居たが今回結城日銀總裁突然に鳴り響等の肝入で『財團法人興亞學院』を設ける事にきまつた、同學院の院長には光行氏が就任、本年二月川崎市に出來る校舎に一期百名づゝ、全國少年審判所の認めた要保護少年中から知能試驗でパスしたものを入學させ六ケ月間技術を修得させた上大陸へ送らうと云ふ、とかく消極的になり易い保護事業を積極的に人物養成と同時に產業戰士を作り出そうとするものである。

反違法護保機軍

重厳に亘り園範廣なつた

【東京通信】陸軍の重大な軍事上の機密を護る軍機保護法施行規則の一部が今回改正されて十二日の官報で公布即日實施される事になつたが、從來一般國民の軍機保護法違反者が『何が違反になるか』を知らずして違反に問はれる者が多かつたのに鑑み今回の改正では『あれはいかぬ、これは話してはならぬ』と非常な廣範圍に亘つて軍事上の秘密事項や圖書物件の種類を示して防諜の强化を圖つたものである、新に機密事項として定められた主なものを拾つてみると

宮闕守衛にあたる軍隊の任務、部署、配備、行動をはじめ戰死者等に關する軍隊の損耗數軍需品の消耗數、外地にある軍專用飛行場の位置、動員部隊の編成裝備、羅津(北鮮)要塞附近及樺太に駐屯してゐる部隊の編成裝備等は一切機密事項となつた、又陸軍將校の數に關しても嚴重に取締られることになり將校の總數はもとより大將が何人ゐるとか豫後備や兵科別の人數なども御法度毎年徵收される現役兵や第一補充兵數、壯丁人員に對する之等の比率聯隊區管内の在郷軍人數等も機密になつてしまつた、運輸や通信についても軍に徵用された航空機種類、數、性能、武裝、輸送人員並に物件の種類員數等が嚴重に取締られてゐる。

淺間丸事件 圓滿に解決す

一時日英國交上の險惡化を氣遣はれた淺間丸事件はイギリス側から文書を以て陳謝の意を表し、抑留された學的操作を施して出來上つたもので、堅さ、彈力及び電流を良導する点に於て鋼鉄に優るとも決して劣るものではないと。

唄つて踊りぬいた 聖市の謝肉祭

▽……不景氣風を吹き飛ばす

今年のカルナバルは曇り勝ちの空模樣、晴れたかと思ふと忽ち曇り又雨で初日から最後まで脅かされ通しだが、それでも變裝假裝の若い男女でラルゴ・ダ・セの市設踊場を中心にヂレイタからリベロ・バグロー更に中央郵便局前から

アベニーダ・サンジョアンは身動きもならぬ人出である、懸賞假裝行列の審査が行はれるプラサ・ドコレイオからサンジョアンの大通りは特に賑かで押すな押すなの雜沓だ。セントロ・バウリスタ・ドス・クロニスタス・カルナバレスコスの審査委員連が汗だく〳〵でプラサ・ジュリオ・メスキッタに設けた物見台に朗かな顔を並べた二日目の晩は、天帝無情にも俄雨を降して群衆を四散せしめたので何れの面々も悲觀落膽の態であつたが、十時半頃から小にくらしい雨も漸く止んだので、其時まで悄々として待機の姿勢で大空を睨らんで居た假裝變裝をにらんで居た假裝變裝は不景氣々々と泣き言をなら

ブラサ目指して練り込んだ景氣好く審査委員の居並ぶそこで懸賞附審査を受ける者は審査所前少くとも三十米突の間隔を保ちつ、往復二回お目に掛けなくてはならぬ御法度に從つて、吾れこそは天下の珍第一位を以て選に入らむとの自信自惚れの面々、鼻を高うして唄ふ踊る跳ねる、また路傍にそれを看て抱腹する見物人野次馬等々で、さしも廣いアベニーダも唯だ人混みと喧騒歡樂のルツボと化した假裝隊に授與される賞牌は銀製の華かなるもの其數廿個以上に達し、ラジオ・コスモスを筆頭に市内重なる商社の寄贈に係はる。

踵を轉じてラルゴ・ダ・セに往けば廣場一杯に設けられた市設公衆踊場には彼よりもダンス好きの男女が

黑 山のやうに群つて

ブカ〳〵ドン〳〵のムジカの調子に乘つて浮かれ躍り狂ふさまは物すごい程で、二日目の月曜の如きは翌朝の未明まで續いた。

斯くて、本年の聖市謝肉祭は不景氣々々と泣き言をなら

ベルリンのイグファルベン理化學研究所では久しき以前から鉄の代用品に就て研究中であつたが、遂に完成したと本月五日發表した。發表によれば右は石炭、石灰及び其他の鑛石に或る化

鐵の代用品 ドイツで發明

側は日本船に對し臨檢を行はざる方針を採ることを以て一應解決、右顯末は四日東京及ロンドンに於て同時に發表された。

薄氣味のわるい男 モロトフとスターリン

モロトフがソ聯首相の椅子についたのは今から十年前、彼が四十歳の時のことであるが、しかし、その名の俄に世界に知れ渡つて有名となつたのは遙昨年の五月、リトヴイノフをおしのけて外相を兼任し、自ら外交の重局に乘り出してからのことである、從來も、ソヴエート外交は、首相としてのモロトフがその指導にあたり、リトヴイノフは、たゞ彼の笛によつて踊つたに過ぎない、しかし歐洲の情勢急を告げ、ソ聯飛躍の時來ると見るや、首相自ら外相を兼ねて外交の表舞臺に乘り出す事になつた。

▽——△

ソ聯は共產黨の獨裁治下にあるが、モロトフ首相就任のころから、黨と政府とは異体同心であるといふ立場から、重要なる政令は黨書記長スターリンとソヴエート内閣議長モロトフ兩名連書をもつて公表するやうになつて來た、資格から云へば、後者の方が前者の上席にあるが、しかしソヴエート政府は、共產黨を母体として居る關係上、實權の上に於いては勿論スターリンが主、モロトフが從の立場にあるは云ふまでもないが、然かしモロトフは何んと云つても、今日のソ聯政界に於て押しも押されもせぬスターリンに次ぐ第二者であるとしなければならない。

▽——△

スターリンとモロトフ二大巨頭を比べて、特に對照の興味を感ずるのは、兩者の間、一方全然正反對な点があると同時に、他の半面二人はまた幾多の相似点、共通点をもつて居るといふことである、スターリンはコーカサスのジョルジアに生れアジア人であるが、モロトフは北露ヴヤトカに生れ、生粹のスロシア人である、前者は靴工の家庭に長じ、宗教學校に入つて間もなく放校され、自來正則な學校教育をうけたことなく彼の學問は主として獄中か流刑時の獨學で勉强したものである。

▽——△

モロトフは一商店員の家庭に育ち、カザンの實業學校を卒業間際に放校されたが、追放地で校外試驗をうけて、同校を卒業し、ペテルスブルグに出て工業學校に入り、ともかくも最高學府の門をくぐつた、スターリンにはインテリの臭が殆んどしないが、モロトフは立派なインテリである、前者が、其床下時代主としてコーカサスその他邊疆地方の勞働者に伍して暗躍して居たのに對して、後者が、いつもヴヤトカ、カザン、ペテルスブルグ等々の都會地の學生間にあつて、アジアの指導に當つて居るのもその出身閥歷の然らしめたところと云へるであらう。

二人はまた、その風貌に於いても正反對である、スターリンは前額狹くして、後頭部のみがつき出して、いかにも智腦よりも、意思の强さを表徵して居るが、モロトフは前額部巨大にして、その前額從つてまた廣い、あくまで智謀に長じ居るかに見える、赤色廣場上に於いては勿論スターリンが主、モロトフが從の立場にあるは云ふまでもないが、然かしモロトフは何んと云つても、黨と政府とは異体同心であるといふ立場から、重要なる政令は黨書記長スターリンとソヴエート内閣議長モロトフ兩名連書をもつて公表するやうになつて來た、資格から云へば、後者の方が前者の上席にあるが、しかしソヴエート政府は、共產黨を母体として居る關係上、實權の上に於いては勿論スターリンが主、モロトフが從の立場にあるは云ふまでもないが、然かしモロトフは何んと云

今 だ! とばかりに

任のころから、黨と政府とは異体同心であるといふ立場から、重要なる政令は黨書記長スターリンとソヴエート内閣議長モロトフ兩名連書をもつて公表するやうになつて來た、資格から云へば、後者の方が前者の上席にあるが、しかしソヴエート政府は、共產黨を母体として居る關係上、實權の上に於いては勿論スターリンが主、モロトフが從の立場にあるは云ふまでもないが、然かしモロトフは何んと云

記者の雜記帳

△

來る紀元節は實に光輝ある紀元二千六百年、我等帝國臣民たる者これを迎ふる心持に於て自ら例年のそれと異らむ、謹みて省み眞との『日本人』に復る所あれ。

△

一月〇日、近く歸朝の途に就く日本病院の前事務長原口七郎氏後任の福川薩然氏同伴挨拶の爲め來社さる。

△

聖市に於ける唯一の公認貴金屬鑑定家として知られ、本紙に廣告中のブレタニヤ氏一日本社へ來訪、日本人の中には貴金屬の貴買に當り鑑識眼無きため往々インチキに引つかゝり憂き目を見せらるゝ者があると聞くがそんな場合に一と口私に相談され、ば決して損はありませんと語つた。

△

取敢ず前號の三面に報道して置いたグアラペス在住の同胞未亡人が四人の遺兒を抱えて途方に暮れた果殺鼠劑タツーを服用し、三人の子供を道連れに自殺を遂げた事件など所謂移民哀話について、泌み〳〵荒木君と深夜まで談つた。天涯の異域を放浪する我等なれば斯かる哀話にそゞぐ涙はまた切なるものがあり、色々な角度から考へさせられることが多い。

▽……△

何處に往つても耳にすることは『今度こそは棉がシツカリ採れたら歸國する』と云ふ聲である、我が出先役人はもとより母國から視察だ使節だと稱してやつて來る人悉くが永住を勸めるが、そんな お念佛は最早や是等の同胞には馬の耳に念佛である。眞に我等の實生活に觸れて我等が胸底の惱みを汲んでくれるなら、此のまゝの狀態、此のまゝの姿で當國の土となれ、と云ふ無慈悲な放言は出來ない筈だ。我等をして永住せしめる爲めには先づ安んじて暮らして行ける樣にして貰はなくてはならない、從來識者の謂ゆる大和民族の發展といふこと、或は八荒一宇の理想と云ふも要するに我が子孫無窮の繁榮であり而してその繁榮とは今よりもヨリ優れたる日本人の種子を永久に傳承せしむる謂ひに外ならないのである。

然るに現在の姿から將來を想ふと我が在伯邦人の前途は暗憺たるものではないか!と云ふのが『今度こそ棉が採れたら歸國したい』と云ふ人達の切實なる叫びである、まこと涙と汗で惡戰苦闘して居る在伯同胞衷心の要求に耳を覆ふて何が對策の在郷軍人數等も機密になつてしまつた、運輸や通信についても軍に徵用された航空機種類、數、性能、武裝、輸送人員並に物件の種類員數等が嚴重に取締られてゐる。

聖市の謝肉祭

ノロエステの旅

【無文漢】

【承前】

ブラツタからアラサツーバへ歸着したのは既に夕陽逼る灯しころであつた、富士ホテルには豫て通知してあつた荒木君が態々バライゾから來て待つて居て呉れたので、バライゾ方面の近況をつまびらかにする事が出來た。同君は目下同地在住のブラジル人智識階級の希望に應じ日本語の教授を始めたとのこと、何れも日本文化に對する憧憬と共に深甚の興味をもつて學習して居る由であるが、他面嚴しい法令を以て我が第二世への邦語教育に制限を加へある、まこと涙と汗で惡戰苦闘して居る在伯同胞衷心の要求に耳を覆ふて何が對策の在郷軍人數等も機密になつてしまつた、運輸や通信についても軍に徵用された航空機種類、數、性能、武裝、輸送人員並に物件の種類員數等が嚴重に取締られてゐる。

▽……△

其他奥地を巡つて痛切に胸を打たれるは外力に依る『日本人の精神的萎縮』である、即ち澄澈たる昔日の意氣が頓に鎖沈した事である、同時に極端な物質萬能のユダヤ主義が風靡してゐることである。こんな事で果して可いものだらうか?萬里の波濤を超えて日本男兒の眞骨頭何處にありや、海外雄飛の大精神を閑却する人々の余りに多きに私の胸は寂しく曇る。然も同胞有識社會の現狀は如何?內には獅子身中の虫的存在を放任して青年に革新の生氣無く、上も下も凡てが中心に近づかざる回避的態度いつまで苟安姑息の夢を貪つて居るのか?

『日本人の精神的萎縮』之れがやがて第二第三世に影響する結果を想倒するとき冷水三斗を浴びるの思があるではないか。

さもあらばあれ、斯の如き危機に際し此頃の言論機關、私達の新聞の事だ)の處女會に一冊づゝ(但し會員十名以上の)進呈いたしますから會員名記入の上左記宛て御申込み下さい

ノロエステ線プロミツソン驛

橋八郎

前に額けば今昔の感慨交々湧き出て懷舊の情盡きず、在伯同胞界に上塚去つて再び上塚莫しの觀を新にした恰も暗黑い長夜に黎明の曙光を待望する如く……。

此の共同墓地には同胞約五百の英靈が眠つてゐると墓守りに聞かされ、今更ながら先驅者の犧牲の大なるに驚き感謝の默禱をさゝげつゝ、辭去した。

本社よりの急用で歸聖を急ぐのでプ市は間崎氏の案內により自動車で一巡した切りだが、二年目に見るプ市は目ざましい發展振りを示して居る。間崎氏の宅で產組の宮本浩氏と久しぶりに會談したが、同組合は從來幾多の曲折を經て今度再び宮本氏が理事長となり配するに創業の功勞者間崎之雄氏其他有爲の士を以て當らせた事は只今起死回生の妙藥を要する產組の爲めには、洵に策の宜敷きを得たものと云へやう。

歸途を急ぐため十二時半の夜行でバウルーに出る。蕭條たる雨の中を態々斯かる夜更けに橘氏や間崎之雄由水正市の諸氏は驛頭まで送つて下された、いつも乍ら御懇情感謝の辭無しである。

▽……△

バウルーでは日會に大釜七藏氏をお訪ねした。恬淡能く胸襟を開いて談らるゝので肝膽相照す百年知己の感があつて愉快であつた、新法令に順應して日會を解散し娯樂クラブの形式にして公認を經たとの事時節柄好い思ひつきである、大釜氏の斡旋で役員その他の有志にお會し樣と云ふのだつたが、不在の仁もあり且つ小生滯在の時間も少いので他日を期する事とした。領事代理の石原氏にはつい面會の機を逸したが到る處非常な好評で、恐らく歷代バウルー代官中同氏程地元の衆から好感を持たれた人物はあるまいと思ふ、好漢幸に自重自愛せよ。(終り)

診察 午前九時ヨリ 午後五時マデ
時間
北大醫學士
今田求
リンス市 電話 一四三
郵函 二三〇

醬油
ノエロエステ線 黑島醬油味噌釀造所
プロミツソン驛

來れ!!
職業紹介所
聖市コンセレイロ
フルタード街二七三
電話二一八三四九
無料宿泊所 グロリヤ街
三八〇 竹村之虎 (01)

特許取扱 (OH)
アドルホ・ブルンネル
聖市サンベント街二〇〇
一階第九室
電話 二一四三三一

社告
野崎彌太郎
右弊社々員ノロエステ線愛讀者各位を訪問致させ候間何卒よろしく御配慮下され度御願申上げ候
南米新報社

PAYSANDU' HOTEL
R. Paysandu' 23 - Flamengo - Rio de Janeiro
リオでのお宿は?
當ホテルは日本人にお馴染多く帝國大使館員には特に御愛顧を受けてゐます。
當ホテルは最新式設備で各室に風呂場電話等の備があり、お食事は充分吟味してゐます而も宿泊料は大勉强致します。
場所は風光明媚
(三〇)

告示
來ル昭和拾五年貳月拾壹日(日曜日)紀元節當日ハ午前拾時ヨリ同拾壹時迄當館(アヴエニーダ・ブリガデイロ・ルイス・アントニオ街四八七番)ニ於テ御眞影拜賀式ヲ擧行ス
右告示
昭和拾五年壹月參拾壹日
在サンパウロ帝國總領事館

來ル昭和拾五年貳月拾壹日(日曜日)紀元節當日ハ午前拾時ヨリ官邸ニ於テ御眞影拜賀式ヲ擧行ス
右告示
昭和拾五年壹月參拾壹日
在リベロンプレート帝國總領事館分館

LOCOMOVEL "WOLF"
Força 40-120-150 - Alta e baixa, em perfeito estado
蒸氣機關賣却
上記は聖市ブリニオ・ラモス街五五製材所エスペランサ・バウラソーザに在りますから實物をお目にかけ格安にお讓り致します (三)

OHARA IRMÃOS & Cia. (OH)
●農產物賣買
●農產物委託販賣
●リオグランデ產米直輸入元
本店 大原兄弟商會
聖市パウラソーザ街二三一
電話 四一二八三一
一、精米 カフエ精撰所 農產物仲買及倉庫
支店 アラサツーバ
一、精米所及倉庫 農產物仲買
支店 グワラ、ペス
一、農產物仲買
支店 ミランドポリス

裁縫獨習者へのー大福音
初步の方が御覽になつても、すぐに應用の出來る
橋八郎著 (OH)
男女洋服裁縫獨習書
——定價六十ミル送料共——
十六種の裁ち方ゝ縫ひ方及び二種の裁ち方とを百卅七頁に百五十三個の圖を挿入れて委しく解き明かしてありますまた流行などでどんなに形が變りましうとも自由に割り出して行かれる裁ち方を平易に說明してあります
●取敢ず聖市では各邦人書店に於て發賣中
●出版を記念するため百册だけを各地處女會に一册づゝ(但し會員十名以上の)進呈いたしますから會員名記入の上左記宛て御申込み下さい
ノロエステ線プロミツソン驛
橋八郎

番茶のシーズンが參りました
本年も弊茶園製の新しい極上品を召しませ
SUMIDA Chá PRETO
レヂストロ
隅田茶園
郵函 四二
品質を誇る 紅茶、綠茶
特用包 美しい安いセロハン包裝
鑵入

MACHINA S. PAULO
棉花好條件ニテ購入致シマス
飯田崎コンパニヤ
プロミツソン
電話 三一番

Redação e Administração
R. Pires da Motta, 838
Tel: 7-1614

NAMBEI SHIMPO

(SEMANARIO SUL AMERICANO) Traducção dos artigos principaes

Diretor: J. V. França
Proprietario:
Y. Nakamura

FUNDADO EM 1928 | S. PAULO——QUINTA-FEIRA, 8 DE FEVEREIRO DE 1940 | SEMANARIO, No. B-272

As duas meninas orfãs, lembram-se dos paes ao pé de uma mesma carteira

Tokio-especial. O toque ora vibrante ora melancolico da corneta, anunciando a paralização de tirocinio que custára a cara vida de multi patriotas que repercutiu na extensa zona de litigio, Mongolia manshuriana.

Enquanto isto se passava, em Tokio na residencia da senhora do coronel Yamagata, situada no bairro "Setakedani" encontrava-se duas meninas ambas colegas e amigas da escola feminina de Tyofu, matriculadas na mesma série.

Uma era a segunda filha do coronel Azuma chamada Naoko com seus treze anos de idade e a outra a filha primogenita do coronel Yamagata chamada Keiko, contando seus 14 anos de idade, ambas enlançadas por uma amizade quasi fraternal pela coincidencia de ver seus paes queridos, mortos na mesma fronteira.

Estando elas ao par de que acontecera na fronteira Mongolia manshuriana, exclamou Keiko, então já orfã de pae a poucos dias em tão de que não estava satisfeita Deviam fazer compreender os mongolianos para que não tentem inuteis ataques. Naoko que tinha regressado da Manshukuo respondeu-lhe com ar de quem sente condoecido. Muitos já pereceram, e ainda estão numerosos a sentirem o desconforto, tomara que voltem sadios.

Ambas calaram-se talves com os seus pensamentos fugidios voltos na vastidão da Manshukuo, enquanto, suas mãos iam pousar na boneca exposta sobre a mesa, para fazer dela, submissa vitima ao capricho dos rebeldes dedos.

Naoko frequentava a escola feminina em Manshukuo, tornando ao Tokio, após o falecimento do seu pae, juntamente com o osso recalio, e onde por cuidado da senhora do coronel Yamagata conseguiu matricular-se na escola feminina de "Tyofu" na primeira série, ao lado de Keiko, onde as horas folgas passam as horas a contar a vida dos seus paes.

AS MEDIDAS PROTECIONAES CONTRA DIVULGAÇÕES DOS SIGILOS MILITARES

O rigor desta medida abrangeu em todos sectores das atividades nacionaes

Tokio-especial: Com intuito de melhor resguardar o sigilo militar, mormente em tempo de guerra, o exercito niponico resolveu introduzir um certo numero de reformas nos estatutos protecionistas mantidos até agora, contra quaesquer esclarecimentos militares. Estes entraram em rigor conforme o diario oficial editado no dia doze.

Modalidades de assuntos que são considerados como segredos: O oficio e posto e equipamentos dos guardas de palacios e templos imperiaes e nacionaes, combate e o numero de abaixos causados, consumo e prejuizo das munições, os aeroportos extra territoriaes de uso exclusivo dos militares e suas localizações, a forma de comando equipamentos da força mobilizada, o numero e aparelhamento dos aeroplanos o numero de soldados estacionarios na ilha de Sakalina (Karafuto), e tambem qualquer informações da zona fortificada.

Alem destes assuntos a saber é vedado as explicações que se refere ao numero de chamados anuaes para o efetivo, o numero de reservistas da segunda e terceira categoria o numero de marechaes, dos oficiaes dos exercito, e dos soldados ruraes, equipamento e tipo de aviões que encarregarão de fazer o transporte das munições e informações.

O DEPARTAMENTO PROTECIONISTA DOS MENORES
E a nova leva dos jovens para o continente

O desenvolvimento da industria em via de regra favorece o ambiente propicio pro aumento dos jovens de procedimentos vis.

Diante deste fato o Departamento Protecionista dos Menores, do Ministerio da Justiça entrou em acordo com os demais presidiarios visando tomar medidas especiaes para amortisação dos atentados e crimes.

Ao lado disto a lavoura manshuriana está carecendo o numero ilimitavel de jovens dotados de tecnica para os trabalhos qualificados.

Então desde já eminentes jurisconsultos, como o sr. Shiono ex-ministro de Justiça e o sr. Takada, general da divisão e sr. Mitsuyuki ex presidente dos promotores, tentaram resolver problemas atinentes a este respeito, mas tardiamente com a intervensão dos membros destacados da seciedade de Tokio, ficou determinado a construção do "Instituto de Restauração Asiatica" mantido pelas contribuições publicas.

O instituto que deverá ser construido em primavera deste ano na cidade de "Kawasaki" com a capacidade de internar mais ou menos 100 jovens escolhidos de todos presidiarios do Japão por meio de exame mental, e apos meio ano de instrução referente a agricultura serão enviados ao continente asiatico, e o sr. Mitsuyuki ex-presidente dos promotores do Japão foi nomeado para exercer o cargo de diretor deste instituto.

É um dos institutos que visa não só formação de homens de carater, mas tambem os braços indispensaveis para a lavoura manshuriana.

PRIMEIRAMENTE A QUININA

Durante a expedição italiana na Abissinia, uma coluna militar chegou um dia ao meio-dia, sob um sol tórrido, as margens pantanosas dum rio, num sitio em que as tropas de engenharia estavam a construir uma ponte provisória, pois que a antiga tinha abatido por causa de passagem de cargas pesadas.

O oficial de engenharia que estava encarregado da construção da ponte declarou ao chefe da tropa que, de momento, não se podia fazer passar os carros para a outra margem e que portanto era precíso ter paciência até que a ponte estivesse acabada.

"Impossível", disse o chefe da coluna. "Temos que seguir para diante."

"O que levam consigo?" perguntou o engenheiro.

"Munições e tambem medicamentos, sobre tudo quinina."

O pontoneiro refletiu e então disse:

"Posso interromper o trabalho durante algumas horas para levar á outra banda o carro que leva a quinina As munições terão que esperar; as nossas tropas da frente precisam de medicamentos de modo urgente."

E assim foi que a viatura que levava o remédio salvador contra o paludismo foi levada para o outro lado do rio, reunindo-se para isso todos os esforços, de maneira que pôde chegar sem demora aos camaradas da frente.

O éxito obtido graças ao uso sistemático da quinina tinha convencido os italianos do valor deste medicamento a um grau tal que seu nome produzia o efeito de uma palavra mágica e que muitas vezes davam a precedencia á quinina sôbre todos os outros transportes. A direção do exército, por seu lado, tambem teve em conta tal ponto de vista desde o principio, como aponta o Prof. Aldo Castellani, chefe do serviço médico militar. É ao facto dos oficiais superiores, exatamente como os soldados rasos, tomarem com regularidade quinina que se deve atribuir o resultado seguinte: o exército italiano, composto de cerca de meio milhão de homens, ficou quási ileso de paludismo numa região em que o mosquito do paludismo imperava de modo ilimitado. Antes do inicio da conquista italiana, em 1933, e tambem mais tarde, em 1937, A Comissão de Paludismo indicou o modo de emprego mais judicioso da quinina. Recomenda que se tome, a título preventivo contra o paludismo, durante a estação das febres, uma dose diária de 400 miligramas de quinina e, para o tratamento propriamente, dito uma dose de 1 grama a 1 grama 30 centigramas de quinina por dia durante 5 a 7 dias. No seu relatório (edição inglesa) publicado em 1938, a mesma Comissão de Paludismo, a paginas 124 salienta, que a inocuidade da quinina permite a sua ministração pelo pessoal subalterno sem vigilância médica constante. Essa vigilância é necessária com os produtos sintéticos.

É muito provável que foi a sua experiência pessoal que levou o oficial de engenharia a dar prioridade ao transporte da quinina. Não é de duvidar que, em certas circunstâncias, a quinina, para as tropas coloniais, tem mais valor, do que as munições.

Vaz Dias Agency
Internacional
AMSTERDAM C.
Hollanda

Assicurazioni Generali
DI TRIESTE E VENEZIA
Companhia Italiana de Seguros, fundada em 1831

アシクラシオーニ ゼネラリー
保險會社

●總本店 伊太利
●創立 一八三一年
●支拂準備積立金 二・六六〇・〇〇〇・〇〇〇ミル
●生命保險契約高 七・〇〇〇・〇〇〇・〇〇〇ミル
●代理店數 一萬五千個所
●日本內地代理店 東京、横濱、大阪、神戸、名古屋、長崎
●特徴 保險料至廉

聖市支店 Rua Dr. Falcão Filho, 56-10 and.
申込所及び詳細は下記宛
日本人部々長 矢崎節夫
Rua 11 de Agosto, 302-5° andar S. PAULO
Tel. 2-9389-C. Postal, 3329

DR. DURVAL LIVRAMENTO PRADO
眼專門 (ITII)
眼の病氣なら何でも診療します元リオのモウラ・ブラジルの助手
●診療所サントス市ルア・ワスコンセーロス・タバレス三一（二階十二、十三、十四號室）電話五五五九
●時間朝九時より十一時、午后は三時より五時半、土曜日は九時から十一時まで
●自宅サントス市アベニーダ・バルトロメウ・グスモン六四電話二四五四

スパイの回想記

名門に生れたドイツの軍事探偵
アー・カー・グラーブス原著

一、極東をスパイする（3）

それには未だ日ばかり間があったのでセイロンに出掛けて見物してゐた、その時、伯林本部のタブケン大佐から暗號電報の指令を受けとつた。

私は本國とは反對に旅順に向つて船出する事になつた、私は旅順港に於ける要塞工事の進捗狀態を探査して、その全體の狀態をつぶさに本部に報告しなければならなかつた。

當時、私は日露の間に勃發せんとしてゐる戰爭が、獨逸とどれだけ利害關係が有るのかさつぱり解らなかつたので、今度の私の使命は少からず不可解に思つた。また今度の使命には全然氣乘りがしなかつた、といふのは仕事は危險千萬だつたし、露西亞人といふ者は非常に疑ひ深いと思つてゐたからであつた——然し後で解つた事だが露西亞はむしろ反對であつた。

今度は植物學及博物學の博士といふ看板で旅行することにした、私の醫學的な教育は此の方面の僞博士でも事缺くことはなかつた。

すでに多くの人が、就中我が獨逸政府は日露戰爭が不可避と信じた、確に當のロシア人を除く凡ての人がそう考へたと斷言出來た。

此の事を確める爲めには日清戰爭後の三國干涉を想ひ起せば充分である、日本は臥薪嘗膽、時の至るを待つた、支那に於ける拳匪事件に際して露國の裏切行爲それに支那から旅順港を詐取した事、之だけで充分宣戰布告の必要はあつた。

旅順港に着いた私は歐羅巴ホテルに陣取り、探鑛用の鋤や植物用の鍬、捕蝶網などを携へて毎日旅順の山々を徘廻した。

私の眼をとらへた最初の者は致る所に驅使されてゐた支那人の尨大な群であつた、そしてその全部が皆支那人の苦力ばかりでないことに氣がついた、殆ど十人に一人位の割合で苦力に變裝した日本人がゐた、東洋人の容貌の特質を學んだ者であれば苦力の群集の中から日本人を識別する事はさして難事ではないのである。

○

日本人達は旅順港の到る所で、ロシア人の眼の前で平然として群をなして働いてゐた、バイエルン號の甲板で古木男爵が語つた如く旅順港の要塞築造工事に彼の同胞達が實際に傭はれてゐるのだ、之等の日本人達が後に味方の砲撃陣に得難い情報を齎したのだ、私は又遼東半島と金州灣に働いてゐた荷揚人足その者も日本人である事を知つた、かうして事實ロシアの要塞のすべてが日本人に附纏はれてゐた。

此の不注意、此の智識の缺除といふか疑惑の皆無、それにロシア將校連の『小さな人間猿共』が何時か必ず攻撃して來るといふ事の不信、が旅順港の陷落をかなり早めたと私は信じてゐる、何故ならば、旅順は假令防塞が不充分であつたにしても非常に堅固な要所であつたからである。

○

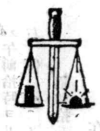
だが、到る所に最も精密な計畫が未完成のまゝであるのを知つた、例へば、山々を歩き廻つて植物の標本を探してゐた時、關東半島の大連から南西の山々に打ち連なる砲臺の全部は悉く未完であつた、又旅順、大連間の鐵道のクロツシング方面は敵の攻撃に曝らされ普通の防備すら出來てゐなかつた。

監督は行き届かず、一般にやりつ放しの狀態なので私が徘徊しても誰も咎める者もなかつた、自由に將校や兵卒連と一緒に歩き廻ることが出來た、三ループルのウオツカを振舞へば私は兵卒仲間の人氣者となつたし、大抵の將校は酒場で馬鹿騒ぎに招ばれ嫌應なく仲間に加はり私の人望は高まるのであつた。

○

かう云ふ仲間から、私は旅順港に於ける糧食が頗る欺かはしい狀態になつてゐる事を聞かされた、そのほんの一例をあげれば、百四十萬磅からの小麥粉の内、殆ど半分が醱酵してすえてゐた、又それが原因で旅順港砲臺中にひどい病氣が擴がつてゐた、戰爭中四割五の兵隊は不衛生な食物が原因で無能力化してゐた、玉蜀黍の五十萬磅には蟲が湧き、七十萬磅以上のコンビーフは腐敗してゐた。

主要產物市況



金銀白金寶石類質札及び貨幣一般に就て其の眞價を知り度い場合、或は賣買の場合には先づ左記公認貴金屬鑑定人ブレタニヤ氏をお訪ね下さい、聖市に於ける公認鑑定家として安心して相談のできる者はこれのみ (DB)

Sr. BRETANHA
Praça Patriarcha, 8
s/5-D Tel. 2-8272

●カフエー（四級品）一九、一〇〇
●アルゴドン（五級品）六四、〇〇〇
●白米（アグーリヤ）買値 エストラ 吉、〇〇〇 ポン 吾、〇〇〇
●フエジヨン 買値 ムラチーニヨ 吾、〇〇〇 同上ポン 四八、〇〇〇
●ミーリヨ 二八、八〇〇
●アマレリニヨ 二八、三〇〇
●アマレロン 買値
●バタチンニヨ 三〇、〇〇〇
スペリオル 四四、〇〇〇
●メリケン粉 一等品 五一、〇〇〇
●砂糖（白極上）吾、五〇〇
●パンニヤ（箱）一九六、〇〇〇
●マモーナ 一、八〇〇

大阪商船發着

日本へ

北米經由 サントス發 二月廿七日 横濱 着 四月十三日
南阿經由 あふりか丸 サントス發 二月 八日 神戸 着 四月 二日
日本より ケープより さんとす丸 神戸發 十二月廿三日 サントス着 一月 八日
ペノスより あふりか丸 神戸發 十一月廿九日 サントス着 二月 七日

尋人廣告

左記者等の現住所御承知致度に付本人又は御存知の向は當館迄至急御一報相煩度し

新潟縣中蒲郡川東村 石本仁
廣島縣安佐郡戸山村 土井信夫
本籍地不明 藤井和一郎
池田竹次郎
安田小三郎
（元北海道屯田兵救恤金請求に關する件）

熊本縣八代郡上球磨村 富田光衛

今般左記の者に對し當聖市衛生局より "Carteira de Saude" 交付方依頼越しありたる所、現住所不明に付本人又は御存知の向は至急當方へ御報知相成度し

記

Kanai Goto
推定住所 グワルーリヨス
昭和拾五年一月十七日
在サンパウロ
帝國總領事館

尋人廣告

左記者等の現住所承知致度に付本人又は御存知の向は當館迄至急御一報相煩度
奈良縣生駒郡平城村大字押熊一二六番地 川崎守
大正十二年徴兵歩兵一等兵 佐賀縣小城郡芦刈村 水田幸太郎
北海道野付郡別海村大字厚別村
昭和七年アフリカ丸渡航者 宮川善兵衛
福井縣今立郡舟津村西鯖江 岡田等
東京府八丈島大賀郷村 石野竹一
青森縣西津輕郡鳴澤村 今勝次郎
山形縣南村山郡東澤村 横山吉之助
新潟縣刈羽郡西仲通村 飯田三次
昭和拾五年一月十日
在サンパウロ
帝國總領事館

胃病？

苦い唾が出たり——食もたれ——氣力衰へ——動悸激しく——胃痛にてお困りの方は遠慮なく左記へ手紙を下さい專門醫の處方無生法等を詳しく傳授致します (送)

C. Postal, 3-904
Rio de Janeiro

貴金屬

DR. H. FENICIO
Av. S. João 536-2 and.
Tel. 4-1188

麻病 (CHD)
ケタリング治療器の使用によりその熱作用で僅か一、二回の治療で根治します。二ケ年の經驗あり。治療費僅少 診察無料

淺倉齒科院
Rua da Gloria, 352
S. Paulo
(Largo do S. Paulo)
聖市グローリヤ街三五二
電話二一六八四八

瀬安
ANZE MOLIZI
CAIXA POSTAL 300
ARAÇATUBA, N.O.B.

安瀬商會
本店 アラサツーバ市
事務所 精米所 珈琲倉庫
電話五四 郵函三〇〇
支店 アグアリンパ 内外雜貨 食料品
珈琲 フバ工場
支店 ヴアルパライソ

精米珈琲精撰 農產物
賣買及委託販賣
瀬ノ上商會
本店 ノロエステ線 クアラベス
郵函 五〇番
電話 二一二番
精米場 ノロ線 グワラサイ町

料亭青柳
聖市 ルア タバチンゲーラ 五六
電話 二一一九四八番

富士旅館
白石織江
アラサツーバ市ブルデンテ・モラエス街九二 (DB)
▽……アラサツーバへお出の節は是非當館へ
▽……秀峯富士の名に背かず形も氣持ちも藩洒恬淡たる當館へイロ

告示

圓紙幣の所持者居出に關する件

客年來我國に於ては一旦海外に流出した圓紙幣の輸入に對し國象上取締を設くること、なつた趣は周知の通りであるが一方富國在留民中には右取締りの實施動に於て單に貯蓄の目的を以て圓紙幣を買溜めて居た者も少くない模樣でこれ等の者は故國訪問歸鄉等の場合種々困難を生ずること、なり事情諒察すべきものがある。依つて今般帝國政府では此等邦人の歸鄉に當り其所持する圓紙幣の處置方につき便法採用方考究中の趣なるに付右に備ふる爲圓紙幣の所持者は本人又は代理人に於て本年二月末日迄に右紙幣持參所轄領事館に出頭し係官の指圖を受け所定の形式に從ひ紙幣入手に關する事項を詳細申告せらるゝ、樣致し度し

昭和十四年十二月二十二日

在サンパウロ 帝國總領事館
在リベロンプレート 帝國總領事館分館
在リオデジャネイロ 帝國領事館
在パウルー 帝國領事館
在サントス 帝國領事館
在ベレーン 帝國領事館